

# 水の源の洞窟を探検し、水の恵みを体感！

令和4年度 緑の少年団交流集会『洞窟探検と湧水プログラム』活動レポート

8月8日（月）に公益財団法人静岡県グリーンバンク主催による『緑の少年団交流集会 洞窟探検と湧水プログラム』が、富士宮市にて開催されました。当日は雲行きが怪しく、天候が心配されましたが無事に開催の運びとなり、静岡市、富士市、松崎町、浜松市等から計30名の子供たちが参加しました。

世界的な気候変動に伴い、ヨーロッパを中心に水不足が深刻になっている今だからこそ、改めて水の大切さや森の担う役割を学ぶ機会として貴重な一日となりました。

## 世界遺産人穴神社に集合！

午前10時、世界遺産でもある富士宮市の人穴神社に集合し、まずは、開会式。運営に当たるNPO法人ホールアース研究所のスタッフから挨拶、スタッフ紹介があり、当日は『楽しく』『安全に』『感じる』をテーマに五感を通して体感するように話がありました。子供たちもスタッフの説明を真剣に聞き、これからの探検を楽しみにしている様子が伺えました。

## いよいよ洞窟へ出発！

コロナ対策もあり、先に洞窟を探検するチームと先に鱒のつかみ取りをするチームの2チームに分かれて活動がスタート。洞窟探検チームは、まず安全のためにヘルメットをかぶります。慣れないヘルメットに苦戦している子もいましたが、全員かぶり終えると神社の入口まで移動し、洞窟に向かう前にスタッフから火山の成り立ちについて話を聞きます。富士山の噴火によってできた洞窟や湖の話に驚きながらも興味を持って聞いていました。話が終わると、いよいよ洞窟に向けて人工林を歩いて行きます。途中、森の中で足を止め、スタッフから「この森にはどんな生き物が住んでいるか？」という問いに、子供たちからは「鹿！」「熊！」「いのしし！」など色々な動物の名前がでてきます。「正解！その他にもリスがいます！」「リスも！」「でも、動物は音や気配に敏感だから、出てこないよ。もしかしたらじっとしながらこっちを見ているかもね。」というスタッフの話聞き、静かにしながら周りを見回す子供たちの姿が印象的でした。

## 洞窟に到着！

15分程歩いて洞窟の入口に到着。さほど大きくはない穴が地下に向かって開いています。洞窟を見た子供たちからは「暗いね」「ちょっと怖い」「早く入りたい」など様々な声が聞こえます。スタッフから洞窟内での注意事項の話があった後、いよいよ洞窟内へ。ヘッドライトを着けた子供たちは一人ずつ中へ入って行きます。「涼しい〜！」「冷たい！」という声が洞窟内に響きました。洞窟内は外よりもかなり涼しく、快適でした。足元に注意しながら一歩ずつ進んでいくと、広い空間に辿り着きました。ヘッドライトで頭上を見るとキラキラと光るしずくが見えます。子供たちも岩を触ったり、水滴を触ったり、思い思いに洞窟を体感していました。



受付にて消毒と検温を実施



距離をとっての開会式



探検の前の準備



火山である富士山の話真剣に聞く子供たち



いざ洞窟へ出発！



森にはどんな動物がいるのかな？



スタッフから「ライトを消して、3分間喋らないで話を聞いて下さい。」という話があり、一斉にライトを消すと暗闇に包まれました。すると天井からポタポタッと落ちる水音が聞こえてきました。その他にも耳を澄ましていると静けさの中にも色々な気配が感じられました。「今落ちてこの水滴が約15年をかけて、この後行く滝や川に湧いてでてきます。だからこそ貴重な水を大切にしないとね。ではライト着けて!」「あー怖かった。」「明るく感じる!」暗闇を一定時間感じた子供たちは、それぞれに感想を言い合っていました。洞窟の中には横道もあり、「横道へ行ってもいいよ。」という声に男の子達が喜んで探検していました。洞窟を出た子供たちは口を揃えて「面白かった!」「涼しくて出たくなかった!」と楽し気に話してくれました。

### 次は鱒のつかみ取りへ!

洞窟探検の後は、鱒のつかみ取りの為に10分程移動。養鱒場に到着すると子供たちのテンションが一気に上がりました。池の中に鱒のつかみ取りができる4つのコーナーがあり、それぞれ班に分かれてつかみ取りが開始。水に入った瞬間に「冷たい!」という子供たちの声が響き渡りました。女の子達はキャーキャー言いながら鱒を追いかけます。「取れたー!」つかまえた子は嬉しそうにバケツに入れます。「一人一匹捕ったら、池から上がって」というスタッフの声に取れた子から池を上がります。なかなか取れない子の為に、取りやすいように鱒を追いつめる仲間の姿もあり、子供たちなりに協力しあっている姿が見られ、思いやりの心が感じられました。全員が取り終わると、お楽しみの昼食です。取った鱒はお店の人が焼いてくれて、一人一人に配られました。持ってきたおにぎりと一緒に鱒を頬張る子供たちは「臭みがなくて美味しい!」「塩加減もちょうどいい!」と嬉しそうに食べていました。鱒のつかみ取りの感想を聞くと「始めてやったけど面白かったしおいしかった!」「鱒はぬるぬるして気持ち悪かったけど、楽しかった!」「水が冷たかった!」と五感をフルに使って感じているようでした。

### 陣場の滝へ!

お腹がいっぱいになったら、次は歩いて陣場の滝へ。川に沿って歩いて行くと流れ落ちる滝が見えてきました。滝の音が聞こえてくると心なしか子供たちの歩みが少し早くなっていくように感じました。滝つぼまでは、石を渡って近づくことができます。子供達は石のぐらつきを確認しながら渡って行きます。「この石ぐらぐらする。」「ここ大丈夫だよ。」と先に渡った子が仲間に伝えます。滝のそばまで行くと、「音がすごいね!」「水冷たいよ。」と滝を満喫しているようでした。スタッフから「この水がさっき見た洞窟のしずくが年数をかけて湧いてきているんだよ。」という話があり、洞窟で見た一滴の水滴が滝へと繋がっていることを実感しているようでした。



一人ずつ洞窟の中へ!



洞窟の成り立ちを学ぶ



みんなで鱒を捕まえよう!



鱒をゲット!



鱒おいしいね!



もうすぐ到着



滝のそばまで行ってみよう!



## 探検を無事終了して閉会式

全てのプログラムを終え、最初の集合場所である人穴神社で閉会式が行われました。各班に分かれ、今日の振り返りを行い最後に代表者が感想を発表しました。「洞窟で明かりを消した時キャーという声をあげる子がいたり、そうじゃない子がいたり感じ方に個性があるんだと感じた。」という子や「鱒のつかみ取りの水がすごく冷たくて足の感覚が変になったけど、最後には鱒取れて楽しかったしおいしかった。」という子、「洞窟で垂れていた水が10年かけて飲めるようになっていたので家で飲む水になるは時間がかかっているから飲めるのがありがたいと思った。」という3人の感想がありました。スタッフが最後に「富士山があることで周りの町や村がどういう恵みを受けているか、富士山の森が雨水を受け止め地下の溶岩に流れるように全てが繋がっているということを知って、また富士宮に来て富士山見たらお腹の中の洞窟を思い出して下さい。」という話をすると子供たちの中には頷いている子も見られました。

普段ではなかなか入る機会のない洞窟に入り、そこで岩から湧き出る水滴が長い年月をかけて滝や川へ湧き出て、やがて私達が飲むことができるようになるという一連の流れをわかりやすく学ぶことができたように思います。水の冷たさ、豪快に湧き出る水の多さや音、水の中で生きる鱒を触った時の感触、捕まえた鱒をおいしく頂くことなど、まさに五感を通して多くを感じられる交流会になったと思います。



一人ずつ洞窟の中へ！



神社の鳥居前で記念写真！